

# 競 技 注 意 事 項

- 1 競技は2022年度日本陸上競技連盟競技規則による。その他顧問会議の申し合わせ事項による。
- 2 競技方法は男女別の学校対抗とし、各種目とも入賞は8名とし、得点は1位8点、2位7点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点とし、男女別合計得点によって対抗順位を決める。  
同点の場合は優勝種目数によって、順位を決め、なおそれによって順位の決定しない場合は第2位の数により決定する。以下これに準ずる。混成については総合のみに加算する。
- 3 点呼はプログラムに示された時間前に招集所で競技者係のチェックを受け、招集完了時刻に本人が招集所にいなければならない。
- 4 選手はその競技をするほか、トラック・フィールド内に立ち入ることはできない。
- 5 (1) 他の種目と兼ねて出場する者は、その旨競技者係に申し出て競技の進行に支障のないようにする。また、競技者係に2種目同時出場申請書を提出すること。  
(2) 点呼に遅れた者は棄権したものとして処理する。  
(3) 招集所から競技場へ行くときは、競技者係役員の誘導に従い規律ある行動をとること。  
(4) ナンバーカードは胸背両部に確実に縫いつけ、端を折ってはならない。ただし、跳躍競技については胸・背のいずれかでよい。(トラック競技については腰レーンナンバーカードを使用する。また1500m以上の競技については胸にレーンナンバーのビブスを付ける。)  
(5) 混成競技の点呼は第1日目、第2日目の第1種目については、競技者招集所にて行うが、第2種目以降は各競技場所で、招集完了時刻までに直接行う。
- 6 トラック競技で棄権者がある場合はそのレーンをあけておく。
- 7 トラック競技の予選のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載の通りとする。準決勝以上のトラック競技のレーン順は、本部(番組編成員)で公平に抽選決定し、競技者招集所に掲示する。なおプラス進出者は全競技者より選び、その規定数より多く着差がない場合、その同タイム着差なしの競技者本人により抽選する。
- 8 ポール以外の用具は競技場備え付けのものを使用する。練習用としても用具を場内に持ち込んではいならない。但し、ヤリは検定の上使用してもよい。検定は用器具庫で競技開始1時間前に行う。
- 9 跳躍競技のバーの上げ方(天候その他の事由により変更することもある。)

男子走高跳	135(練習)	140	145	150	155	160	165	170	175	以後3cm
女子走高跳	110(練習)	115	120	125	130	135	140	145		以後3cm
男子棒高跳	240(練習)	240	260	280	300					以後10cm
女子棒高跳	160(練習)	160	180	200						以後10cm

同成績の場合における1位決定及び全道大会出場枠のためのバーの上げ下げは以下の通り。

走高跳(男女)	2cm	棒高跳(男女)	5cm
---------	-----	---------	-----
- 10 三段跳の踏切板は男子9mと11m、女子7mと9m地点(並行)に設置する。
- 11 決勝競技が終了後表彰式を行うので、アナウンスにより直ちに集合のこと。
- 12 リレー競技のオーダーの提出は、招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。(用紙は競技者係で用意する)
- 13 リレーのメンバーについては、予選においてはリレーエントリーメンバー(6名以内)のうち2名は出場すること。他の2名については、プログラム記載の選手であれば、オーダーに入れてよい。決勝に出場する場合、2名の交代まで認められる。
- 14 セパレート競技においては、決勝線通過後自分のレーン(曲線)に沿って走り、他の走者の妨害をしないようにする。
- 15 1,600mリレーの第2走者の第2コーナー(その位置は緑色の線とブレイクラインマーカーをもって示す)まではセパレートとし、以後はオープンとなる。
- 16 スパイクピンは11本まで、長さは9mm以下とする。
- 17 ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話などは競技場内に持ち込まないこと。
- 18 助力については、競技場内での助力は一切禁止とする。コーチングエリアからの助言については該当種目の競技役員の指示に従い競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。また、コーチングエリアにおいて映像機器を競技者に見せることはできるが、手渡してはいけない。
- 19 靴底についてはレース終了後、規定外でのシューズ使用が確認された場合、失格となることがある。
- 20 感染防止対策として競技中またはウォームアップ以外はマスクを着用すること。